



# 2018年3月期 決算説明会



イチカワ株式会社  
代表取締役社長 牛尾雅孝

証券コード: 3513  
2018年6月14日

## 目次

1. 会社概要
2. 2018年3月期 決算概要
3. 2019年3月期 業績予想
4. 中期経営計画(“NE-18”)
5. コーポレート・ガバナンスの強化
6. 配当政策

# 1. 会社概要

紙の製造に不可欠な  
抄紙プレスパートのスペシャリストとして、  
最高の品質を提供する  
総合ソリューションカンパニーへ。

抄紙用フェルト

シュープレス用  
ベルト

トランスファー用  
ベルト

製紙会社が求めるプレスパートの操業に

最大の効果を発揮できる

3つの抄紙用具の組み合わせを

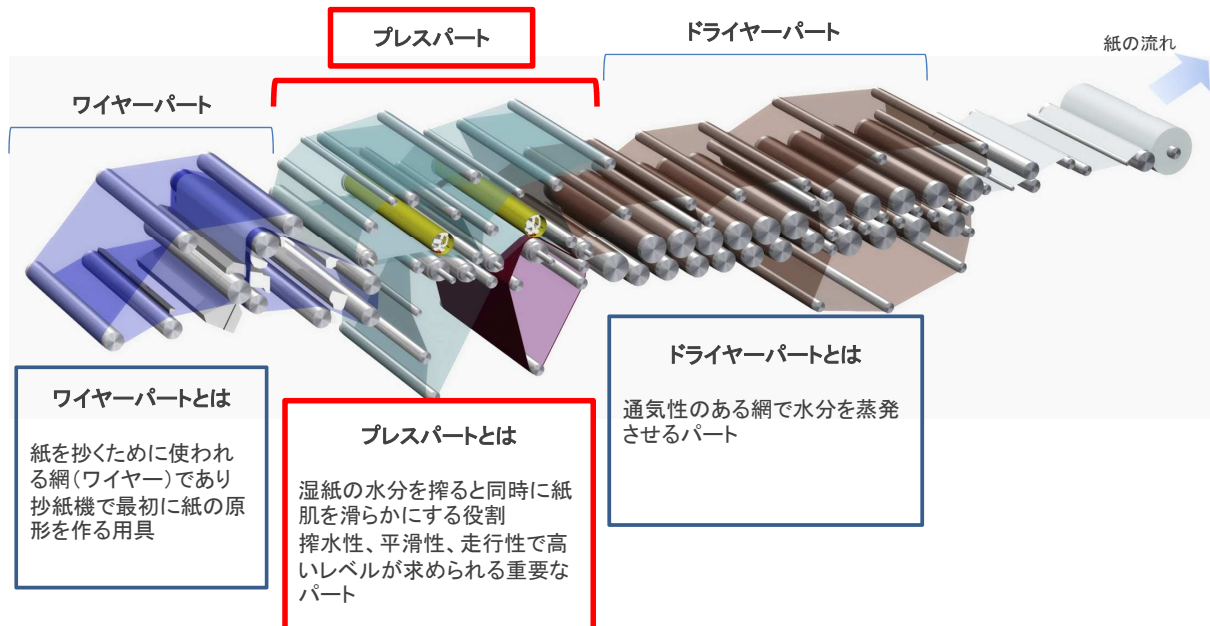
提案、提供が可能な日本で唯一、

世界でも数社しかない企業の一つです。

# 抄紙機のしくみ

製紙会社で紙の製造に使われる抄紙機について

## 抄紙機の最新モデル

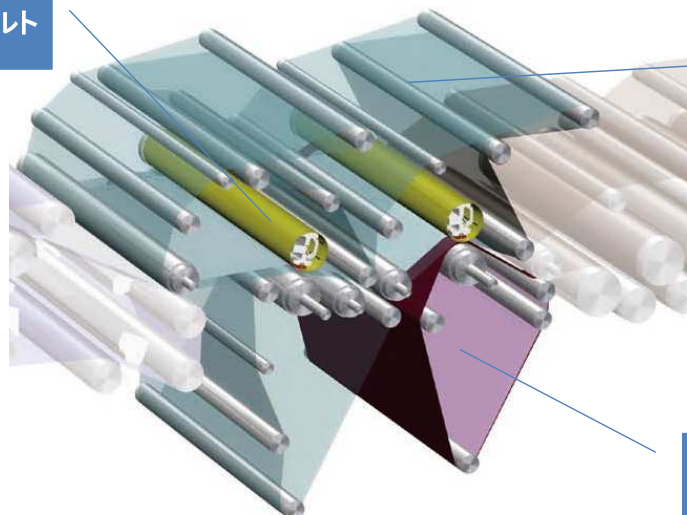


5

## 抄紙工程のプレスパートに使用される 3つの製品をすべて開発・製造・販売

抄紙用具は、全ての紙製品の製造に不可欠な機能を有する製品

シュープレス用ベルト



抄紙用フェルト

トランスファー用ベルト

抄紙用具とは、紙・板紙の製造工程(抄紙工程)において、紙から水分を搾るプレスパート等に使用される用具

6

# グローバルネットワーク

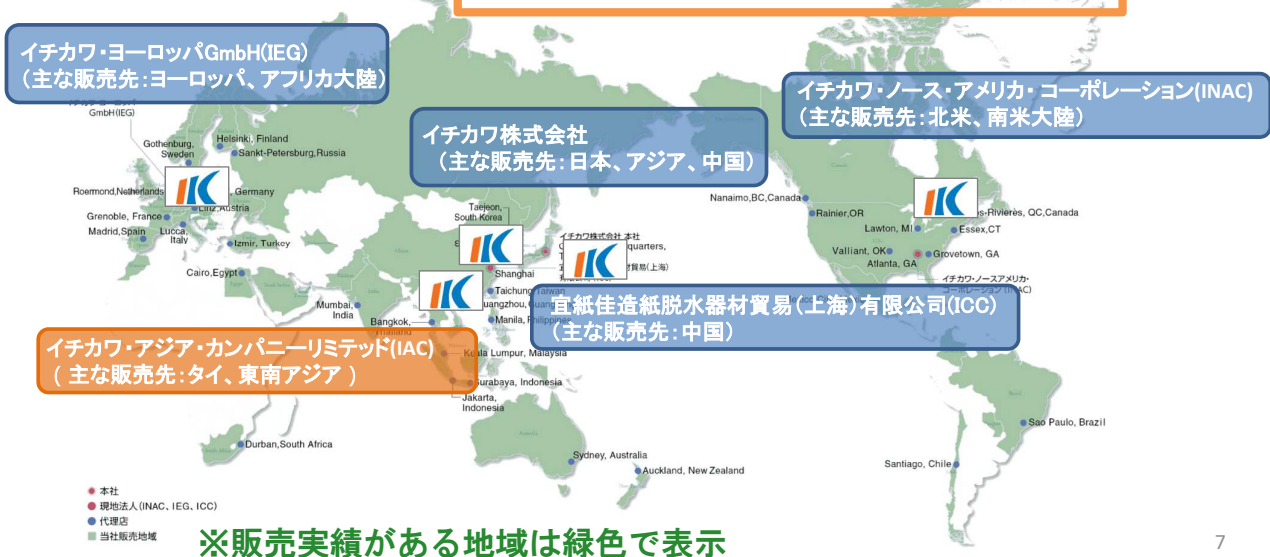
主要市場(日本・北米・欧州・中国)に拠点を置いたグローバルな販売体制

国内拠点 : 本社(東京都文京区)、柏工場(千葉県柏市)、  
岩間工場(茨城県笠間市)、開発研究所(茨城県笠間市)

現地法人 : INAC(北米)、IEG(欧州)、ICC(中国)、IAC(タイ)(2018年7月1日設立予定)

販売代理店 : 31社

40カ国以上、およそ400工場と取引



## 抄紙用具関連事業の主要得意先及び市場占有率

### 主要な得意先 = 全世界の製紙会社

#### 国内

王子グループ、日本製紙グループ、大王製紙  
レンゴー、北越コーポレーション、三菱製紙

#### 海外

#### 紙・板紙生産量上位企業\*の殆どに販売

(北米) インターナショナル・ペーパー、ウエストロック  
(欧州) UPM、ストラエンソ、スマフィット・カッパ  
(中国) ナイン・ドラゴン、APP、理文造紙、  
山東晨鳴紙業、山東華泰紙業  
(東南アジア) APP、サイアム・セメント・パブリック

### 市場占有率\*\*

#### 国内

フェルト  
2社でシェア2分

シュプレス用ベルト  
第1位(約50%)

トランスファー用ベルト  
第1位(約50%)

#### 海外

シュプレス用ベルト  
世界第2位(約30%)

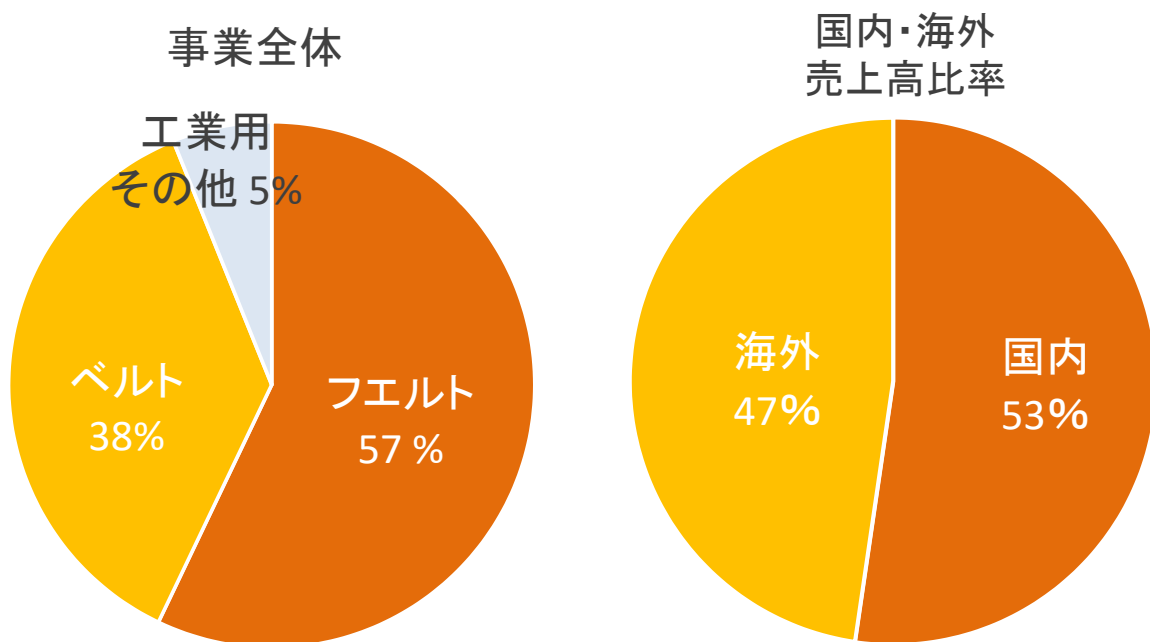
トランスファー用ベルト  
世界第1位(約40%)

\*出典: Future2017年12月4日号

\*\*当社調べ2017年9月現在 8

# 売上高構成比

2018年3月期 売上高 12,417百万円



9

## 2. 2018年3月期 決算概要

## 2018年3月期 決算概要

- ・販売網及び技術サービスの強化により増収・増益
- ・販管費増加の主な要因は人材教育及び営業支援システム導入等に関する費用

単位：百万円	2017年3月期		2018年3月期				対期初予想	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	11,696	100.0%	12,417	100.0%	721	6.2%	17	0.1%
売上総利益	4,180	35.7%	4,666	37.6%	486	11.6%	—	—
販売費及び一般管理費	3,817	32.6%	4,074	32.8%	△256	△6.7%	—	—
営業利益	362	3.1%	592	4.8%	230	63.4%	△127	△17.7%
経常利益	381	3.3%	675	5.4%	293	76.9%	△124	△15.6%
税金等調整前当期純利益	381	3.3%	629	5.1%	247	64.8%	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	235	2.0%	344	2.8%	108	46.2%	△115	△25.1%
一株当たり当期純利益	9.92円		14.50円					

(為替レート、円)

円/米ドル (期中平均)	107.85	110.22	107.49
円/米ドル (期末)	112.20	106.27	105.00
円/ユーロ (期末)	119.78	130.58	115.00

11

## 2018年3月期 事業別セグメント業績

- ・抄紙用具関連事業は海外が牽引し増収・増益
- ・工業用事業は主にクッション材の販売数量増による増収・増益

単位：百万円	2017年3月期		2018年3月期						
	売上高	セグメント利益	売上高				セグメント利益		
			金額	金額	金額	構成比	増減額	増減率	金額
抄紙用具関連事業	11,292	1,927	11,898	95.8%	606	5.4%	2,098	171	8.9%
工業用事業	403	△24	518	4.2%	115	28.5%	51	76	—
調整額	—	△1,540	—	—	—	—	△1,558	—	—
合計	11,696	362	12,417	100.0%	721	6.2%	592	230	63.4%

12

## 2018年3月期 製品別売上高

板紙生産向けのフェルト、ベルトの数量増により増収

単位：百万円	2017年3月期		2018年3月期			
	売上高		売上高			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
フェルト	6,779	58.0%	7,029	56.6%	250	3.7%
ベルト	4,272	36.5%	4,628	37.3%	356	8.3%
工業用その他	644	5.5%	758	6.1%	114	17.7%
合計	11,696	100.0%	12,417	100.0%	721	6.2%

※工業用その他：スレート及び仕入品を含む

13

## 2018年3月期 仕向地別売上高

- ・国内は洋紙及び新聞用紙の操業低下により微減
- ・中国は積極的な拡販活動が奏功し大幅増収

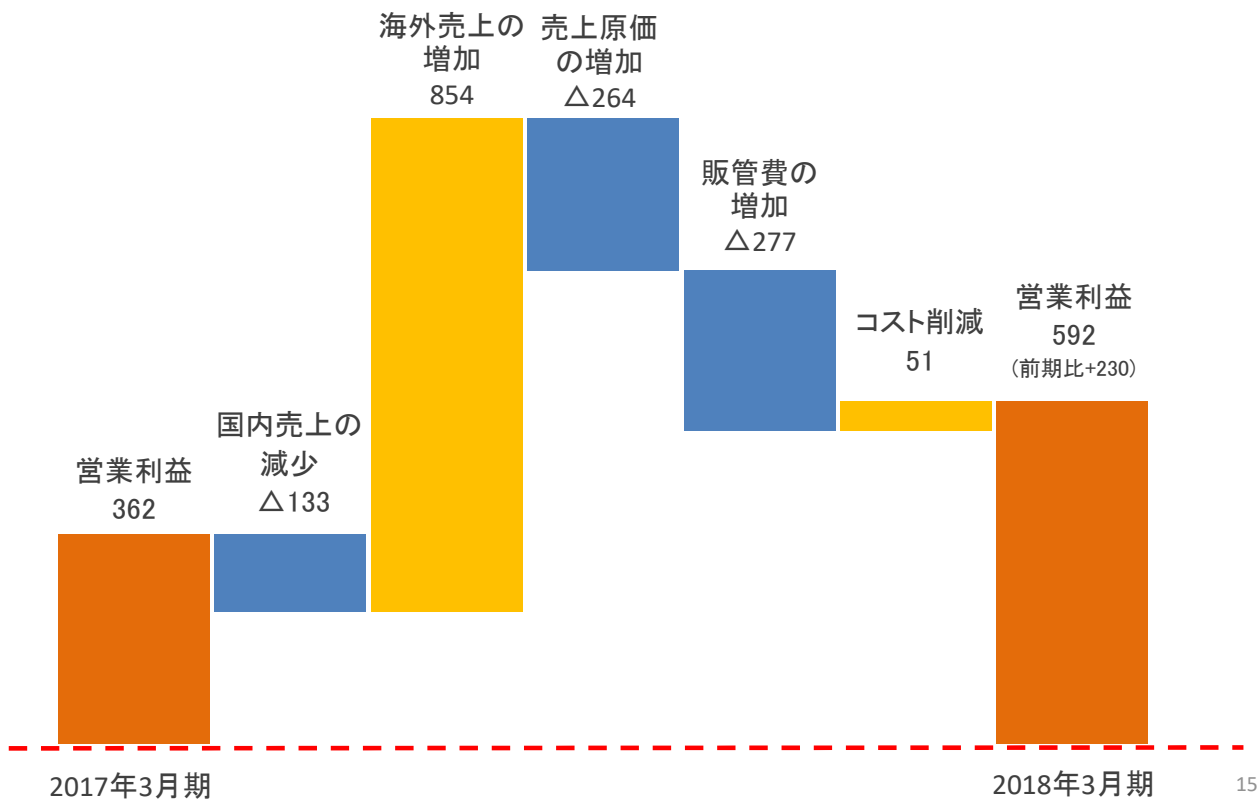
単位：百万円	2017年3月期		2018年3月期		
	売上高		売上高		
	金額	金額	構成比	増減額	増減率
日本	6,809	6,675	53.8%	△133	△2.0%
北米	1,103	1,108	8.9%	4	0.4%
欧州	1,095	1,267	10.2%	172	15.7%
中国	1,359	1,960	15.8%	601	44.2%
その他の地域	1,328	1,405	11.3%	76	5.8%
合計	11,696	12,417	100.0%	721	6.2%

※工業用事業を含む

14

# 営業利益の増減分析

単位:百万円



2017年3月期

2018年3月期

15

# 2018年3月期末貸借対照表

単位:百万円	2017年3月期末		2018年3月期末				主な要因
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	
<b>資産の部</b>							
流動資産	9,895	39.6%	11,567	44.4%	1,672	16.9%	現金及び預金 1,529
固定資産	15,068	60.4%	14,515	55.6%	△553	△3.7%	有形固定資産△947 投資有価証券 381
資産合計	24,964	100.0%	26,083	100.0%	1,118	4.5%	
<b>負債の部</b>							
流動負債	2,545	10.2%	2,997	11.5%	452	17.8%	短期借入金 500 リース債務 △429 未払金 194
固定負債	4,310	17.3%	4,433	17.0%	123	2.9%	繰延税金負債 75 退職給付債務 45
負債合計	6,855	27.5%	7,431	28.5%	575	8.4%	
<b>純資産の部</b>							
純資産合計	18,108	72.5%	18,651	71.5%	542	3.0%	その他の包括利益累計額 484
負債及び純資産合計	24,964	100.0%	26,083	100%	1,118	4.5%	

16



## 2018年3月期 キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	2017年3月期	2018年3月期		
	金額	金額	増減額	主な要因
営業活動によるCF	1,712	2,053	340	当期純利益 247 仕入債務 310 未払消費税等 △89
投資活動によるCF	△1,048	△686	362	有形固定資産 371 無形固定資産 △9
(フリーCF)	663	1,366	703	
財務活動によるCF	△691	153	844	短期借入金 612 リース債務返済 232
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	9	27	
現金及び現金同等物の増減額	△46	1,529	1,575	
現金及び現金同等物の期首残高	1,688	1,642	△46	
現金・現金同等物の期末残高	1,642	3,171	1,529	

単位：百万円	2017年3月期	2018年3月期
	金額	金額
設備投資	1,099	732
減価償却費	1,271	1,235
研究開発費	413	409

17

## 3. 2019年3月期 業績予想

## 2019年3月期 業績予想

新製品の販売数量増及び生産性向上による製造コストの低減で  
増収・増益を見込む

単位：百万円	2018年3月期		2019年3月期予想			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	12,417	100.0%	12,700	100.0%	283	2.3%
抄紙用具関連事業	11,848	95.4%	12,137	95.6%	289	2.4%
工業用事業	569	4.6%	563	4.4%	△6	△1.1%
営業利益	592	4.8%	720	5.7%	128	21.5%
経常利益	675	5.4%	830	6.5%	155	22.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	344	2.8%	510	4.0%	166	48.0%
一株当たり当期純利益	14.50円		107.28円			

(為替レート、円)

(※) 株式併合 (5:1) を考慮した金額を記載 (10月1日予定)

円/米ドル (期中平均)	110.22	(105.00)
円/米ドル (期末想定レート)	106.27	(105.00)
円/ユーロ (期末想定レート)	130.58	(125.00)

19

## 2019年3月期 製品別 売上高予想

フェルトを中心に新製品の売上を伸ばす

単位：百万円	2018年3月期		2019年3月期			
	売上高		売上高			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
フェルト	7,029	56.6%	7,326	57.7%	297	4.2%
ベルト	4,628	37.3%	4,626	36.4%	△2	△0.0%
工業用その他	758	6.1%	746	5.9%	△12	△1.6%
合計	12,417	100.0%	12,700	100.0%	283	2.3%

※工業用その他：スレート及び仕入品を含む

20

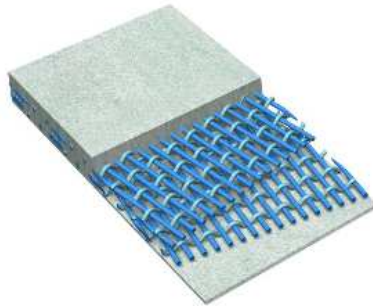
## フェルト新製品 (Zimoシリーズ)

### Zimo Nex



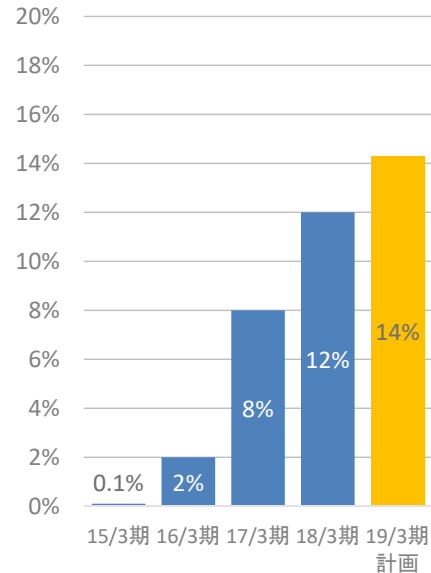
- ◆タテ糸、ヨコ糸を高密度に配置した無製織タイプフェルト
- ◆優れた機能
  - ・紙の平滑性の向上
  - ・高プレス圧下での脱水性

### Zimo Cross



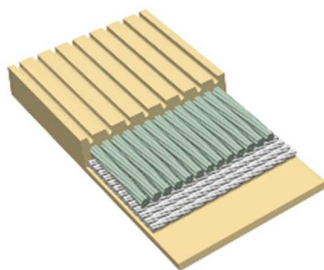
- ◆2枚以上の基布をずらして配置した多軸ラミネートフェルト
- ◆優れた機能
  - ・耐偏平性
  - ・通水持続性
 ⇒高脱水パートでの搾水性向上とロングライフを実現

フェルト売上数量に占めるZimoシリーズの構成比推移



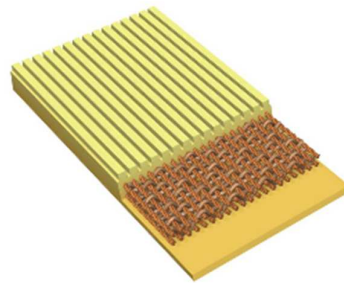
## ベルト新製品

### Ichiriki : イチリキ



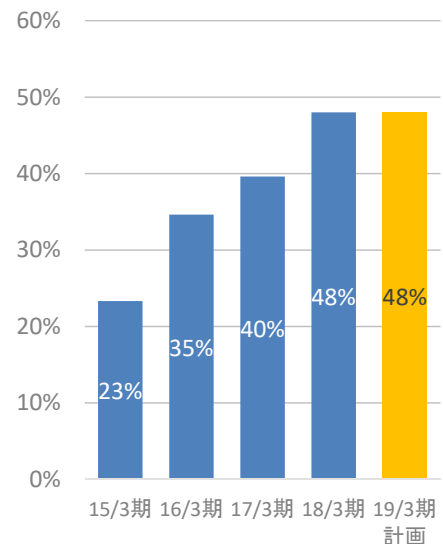
- ◆高速・高プレス圧化対応として高機能樹脂を使用した製品
- ◆優れた機能
  - ・耐クラック性
  - ・耐摩耗性
  - ・耐薬品性
  - ・耐シューサイド剥離
 ⇒高性能、ロングライフを実現

### Yawara : ヤワラ



- ◆表面(又は両面)に世界初の特殊ウレタン樹脂をコーティング
- ◆耐摩耗性に優れた新製品

シュープレス用ベルト売上数量に占めるIchiriki & Yawaraの構成比推移



## 2019年3月期 仕向地別売上高予想

- ・日本は提案型の営業活動・技術サービスの強化による増収を見込む
- ・海外はフェルト・ベルトとも継続した販売活動を推進

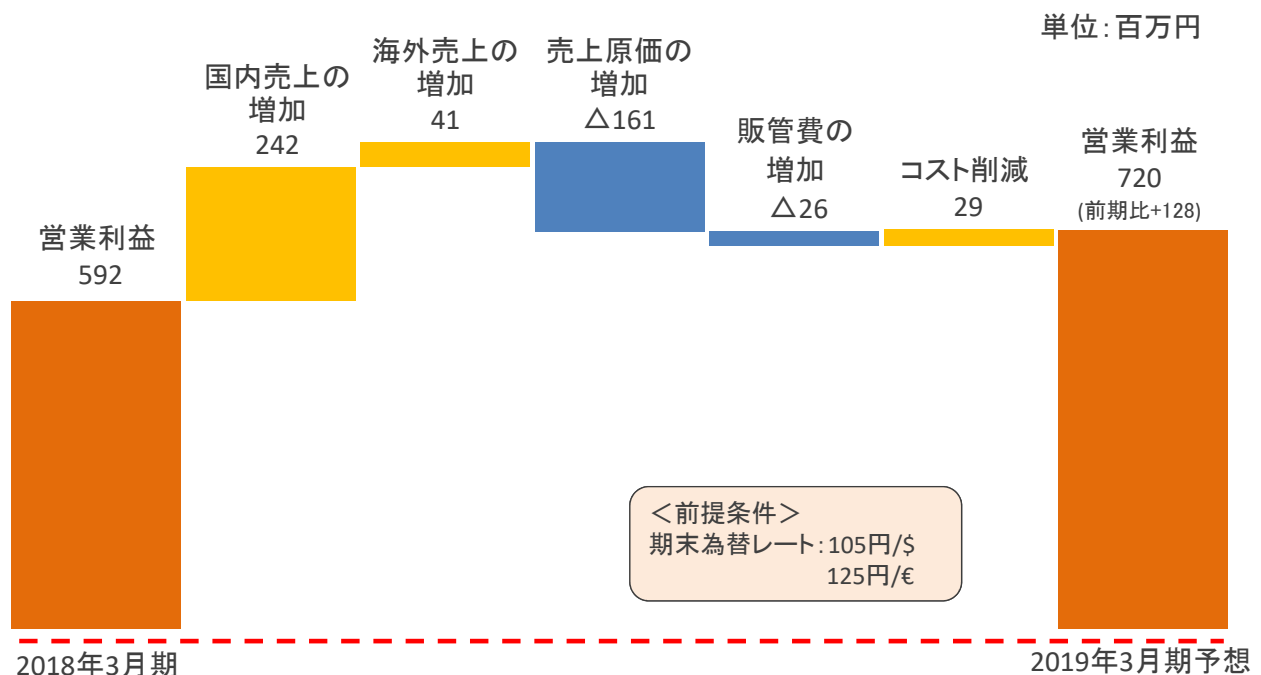
単位：百万円	2018年3月期		2019年3月期予想		
	売上高		売上高		
	金額	金額	構成比	増減額	増減率
日本	6,675	6,917	54.5%	242	3.6%
北米	1,108	1,159	9.1%	51	4.6%
欧州	1,267	1,290	10.2%	23	1.8%
中国	1,960	1,806	14.2%	△154	△7.8%
その他の地域	1,405	1,526	12.0%	121	8.6%
合計	12,417	12,700	100%	283	2.3%

※工業用事業を含む

23

## 営業利益予想の増減要因

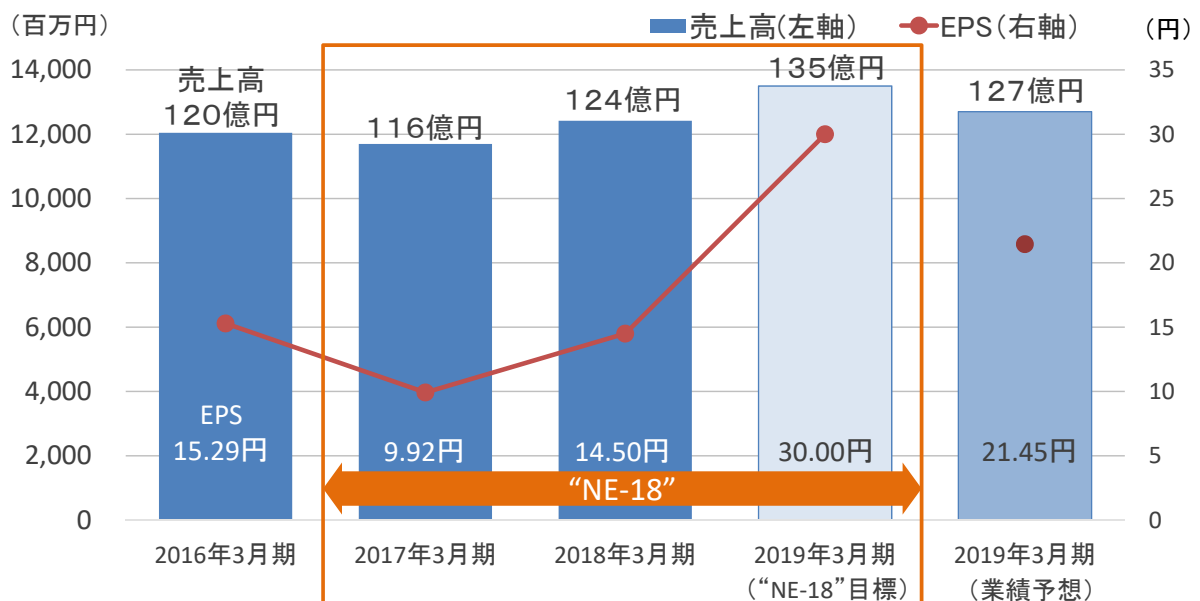
フェルトの売上増加・コストダウン等により128百万円増益



## 4. 中期経営計画(“NE-18”) (2017年3月期～2019年3月期)

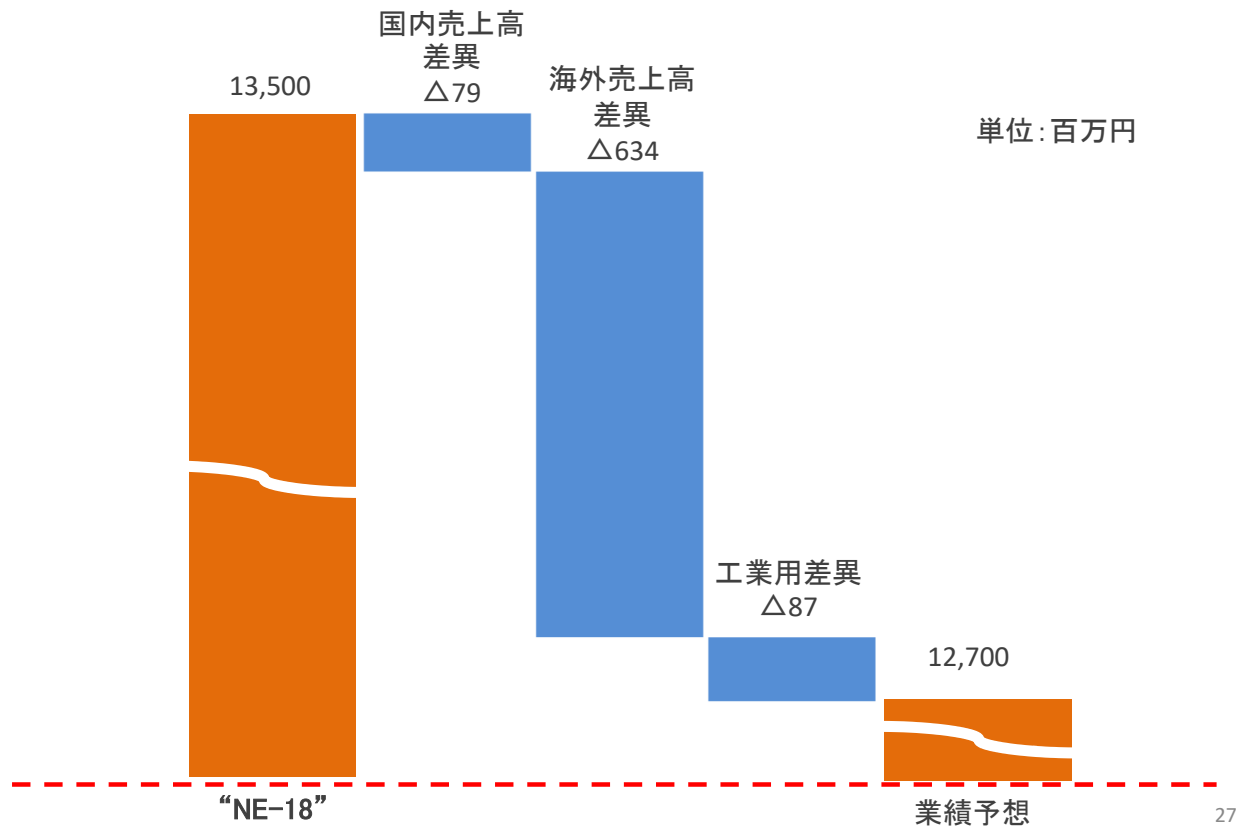
### “NE-18”目標数値

- ・1株当たり連結当期純利益(EPS): 30円
- ・連結売上高: 135億円以上



※2019年3月期EPS: 併合の影響を考慮した場合は107.28円となります

## “NE-18”と業績予想との売上高要素別差異



## “NE-18”進捗

### 【経営環境】

- ・国内：継続的な需要の低迷及び競争の激化が続く
- ・海外：アジアの需要は旺盛も、同業他社との競争は激しさを増す

“NE-18”の2年目を終えて

“NE-18”目標の達成にはやや力不足

“NE-18”の最終年度見通し

“NE-18”目標は未達の見込み

⇒引き続き新製品の拡販、技術力強化、生産性向上等 諸課題の達成及び次期中計の土台作りに取り組み、益々の業績向上に努めていく

## “NE-18”の課題と取り組み



“NE-18”

### 営業力の向上

- ・国内市場でのフェルト市場占有率の向上及びベルトの新規開拓
- ・海外市場での販売網整備、新製品を中心とした拡販

### 技術力の強化

- ・設計技術力の向上及び開発技術力の構築

### 生産技術力の向上

- ・安定品質の提供及び生産性の向上

### 情報インフラの整備

### 工業用フェルト事業戦略の再構築

- ・アルミ搬送用フェルト及びクッション材の拡販
- ・新規用途製品の市場投入

### 人財の育成

- ・グローバル人財の育成

29

## “NE-18”の取り組み

課題	2018年3月期までの取り組み・成果	2019年3月期の取り組み
営業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代理店の整備</li> <li>・タイサテライトオフィスの設置</li> <li>・新製品拡販(Zimoシリーズ、Ichiriki、YAWARA)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア市場拡販のための組織対応</li> <li>・アジア事業部の設置</li> <li>・海外技術部の設置</li> <li>・海外子会社設置(タイ)</li> <li>・新製品拡販</li> </ul>
技術力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術管理部の新設</li> <li>→設計管理業務強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新製法開発の取り組み推進</li> </ul>
生産技術力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造コスト低減活動</li> <li>→委員会を設置し全社的に推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造コスト低減活動</li> </ul>
情報インフラの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業支援システムの導入</li> <li>・製品評価システムの完全運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術支援システムの導入</li> </ul>
工業用フェルト事業戦略の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外市場展開</li> <li>・黒字化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規用途、新製品開発推進</li> </ul>
人財の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外留学、国内研修の整備</li> <li>・階層別教育の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署別教育の標準化</li> <li>・ダイバーシティの推進</li> </ul>

30

## ダイバーシティへの主な取り組み

### 具体的な内容

- ・ 女性の総合職採用や外部からのキャリア採用及び外国籍採用を積極的に行い、人材の多様性の確保を推進
- ・ 女性総合職向けのキャリアアップ研修の実施  
(2017年度は2回実施)



## 5. コーポレート・ガバナンスの強化



## コーポレート・ガバナンスの強化

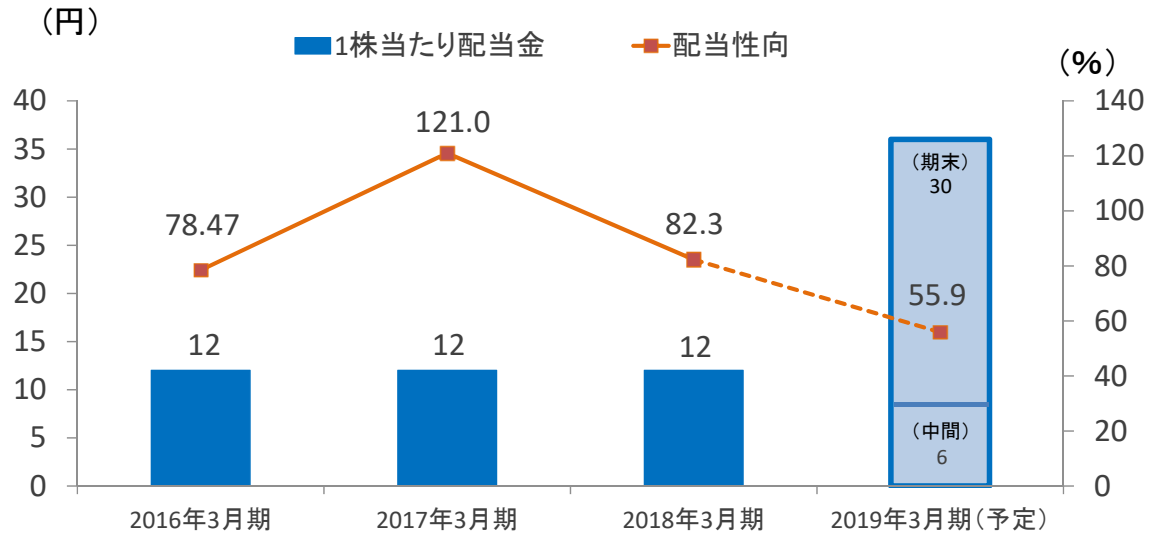
経営の効率性、健全性及び透明性を確保し、企業価値の向上を実現するために、コーポレート・ガバナンスの充実を最重要課題の一つとしております

主な取り組み	内容
社外取締役の活用	会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて社外取締役を2名選任予定(2018年6月)
任意の指名及び報酬委員会の設置	決定プロセスの透明性と客観性を一層高めるため任意の指名及び報酬委員会を設置(2017年11月)
業績連動型株式報酬制度の導入	報酬体系の改定を実施し、業績連動型株式報酬制度を新たに導入予定(2018年8月)

## 6. 配当政策

## 配当政策

- ・安定的かつ積極的な利益還元を基本
- ・配当性向30%以上を目途



(※) 2019年3月期の1株当たり期末配当金は、10月1日予定の株式併合(5:1)を考慮した30円で記載。  
 なお、株式併合を考慮しない場合の1株当たり配当金は、中間6円、期末6円、年間12円。

## 参考資料

## 経営方針

「抄紙プレスパートの総合ソリューションカンパニー」として  
「世界一の品質」を目指す

「総合ソリューションカンパニー」とは、  
抄紙用フェルト、シュープレス用ベルト、トランスファー用ベルトの  
全てを供給できるという当社の強味を活かし、  
お客様に最適な製品の組合せを提案できること

「品質」とは、  
製品・サービス・それらを提供する人を含むものと定義

37

## 会社概要

会社名	イチカワ株式会社 (ICHIKAWA Co., Ltd.)
設立	1949年11月21日
本社	東京都文京区本郷二丁目14番15号
事業内容	抄紙用フェルト、抄紙用ベルト、スレート用フェルト及び工業用フェルトの製造・販売
売上高	12,417百万円(2018年3月期)
資本金	3,594百万円
決算期	3月31日
連結子会社数	6社(国内3社・海外3社)
従業員数	681名
上場市場	東京証券取引所市場第一部
証券コード	3513
発行済株式総数	24,835,758株
単元株式数	1,000株

2018年3月31日現在<sup>38</sup>

# 沿革

年月	内容
1949年11月	市川毛織（株）設立（本社：千葉県市川市）。
1964年 7月	柏工場（千葉県柏市）を新設、ニードルフエルトの製造を開始。
1984年11月	米国現地法人 イチカワ・ノース・アメリカ・コーポレーション(INAC)を設立。
1988年4月	シュープレス用ベルト第1号をアメリカに輸出。
1996年4月	岩間工場（茨城県笠間市）を新設。
1998年7月	シュープレス用ベルトの開発で紙パルプ技術協会から「佐々木賞」を受賞。
2000年3月	環境マネジメントシステム「ISO14001」認証取得（柏工場）
2001年10月	ドイツ現地法人 イチカワ・ヨーロッパ GmbHを設立。
2002年12月	トランスファー用ベルトを販売開始。
2005年4月	中国現地法人 宜紙佳造紙脱水器材貿易（上海）有限公司を設立。
2005年7月	イチカワ株式会社に商号変更。
2007年12月	岩間工場に巾33mの世界最大の大型織機を導入。（ギネス登録）
2014年6月	シュープレス用ベルト新製品「Ichiriki」を販売開始。
2015年6月	抄紙用フェルト新製品「Zimoシリーズ」を販売開始。
2016年8月	シュープレス用ベルト新製品「Yawara」を販売開始。
2017年7月	タイにサテライトオフィスを開設。

# 国内事業拠点

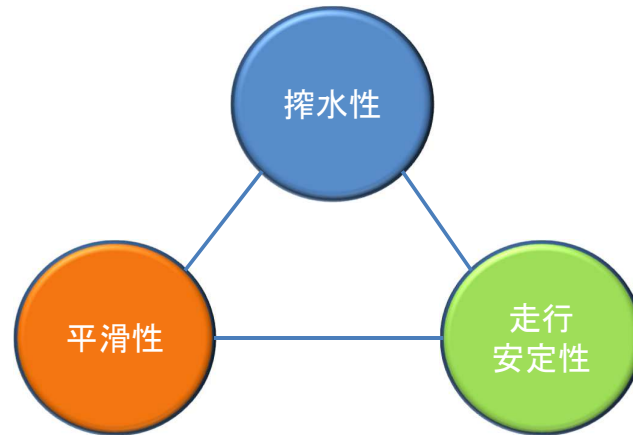
**開発研究所（茨城県笠間市）**

**岩間工場（茨城県笠間市）**  
2007年 茨城エコ事業所登録

**本社（東京都文京区）**

**柏工場（千葉県柏市）**  
2000年 ISO14001認証取得  
2014年 かしわエコカンパニー大賞  
2015年 かしわエコカンパニー大賞（2年連続）

## 抄紙用具(フェルト)に求められる機能



搾水性	平滑性	走行安定性
プレス圧によって湿紙の水分を搾り出す	シートの表面を滑らかに	フェルトの安定した走行で湿紙を運搬
<b>製紙会社の操業性・エネルギー効率に影響 紙・板紙の品質に影響</b>		

41

## 工業用事業

- 抄紙用具関連事業の製造技術応用により開発した工業用フェルトの製造販売
- 高耐熱や高強度の特徴を持つ高機能繊維を原料として開発された製品
- アルミ押出業界、プリント基板業界、製鉄業界などの生産現場で使用



対象業界: 建材・自動車 等  
代表製品: サーモテックス

500°C以上の高温で成型されたアルミ材に傷・歪みをつけず搬送  
→高耐熱性、搬送性に優れる



対象業界: 半導体、建材 等  
代表製品: エースボード

プリント基板や建材などを高温でプレス・成型する際に使用  
→高耐熱性、クッションの持続性に優れる



アルミサッシ



自動車ボディ



プリント基板



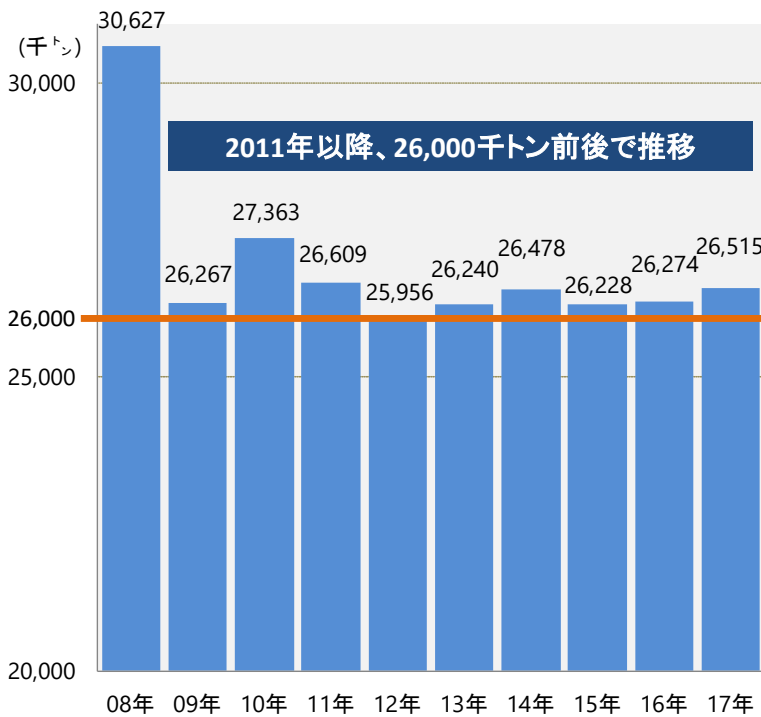
スマートフォン、タブレット

### 優れたコストパフォーマンス

- ①豊富なクッション性の維持：ロングライフ
- ②作業性の改善：工数の大幅削減
- ③環境対応：廃棄物の大幅削減
- ④ノンガス：有害ガスの発生がない

42

## 当社の経営環境 国内紙・板紙生産量の推移(暦年)



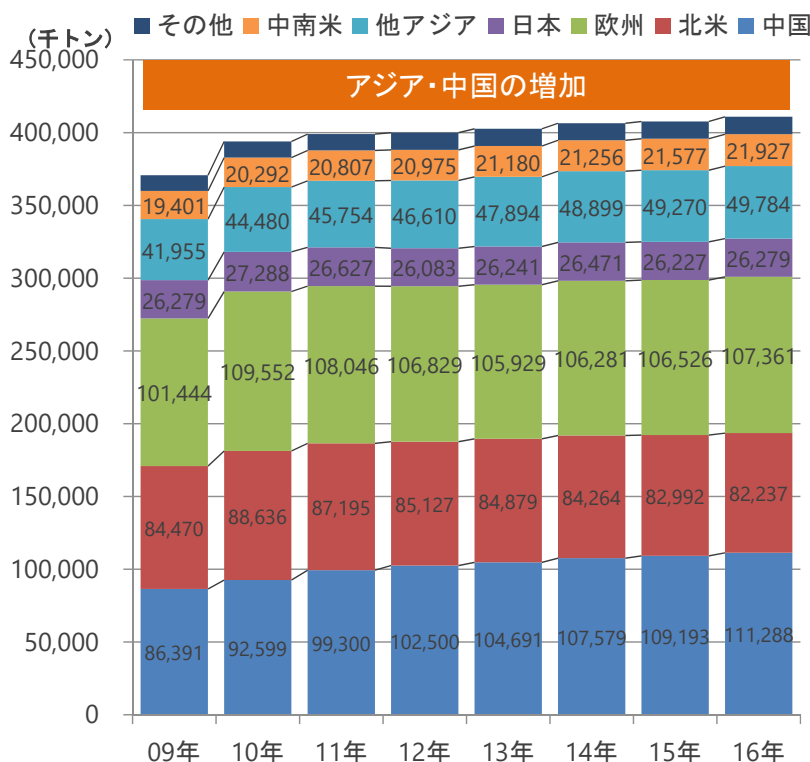
### 《国内市場の動向》

- ・国内の紙・板紙生産量は2008年9月のリーマンショックにより大幅に減少
- ・以降、26,000千トン台で推移
- ・今後も減少傾向が続くと予想

⇒抄紙用具需要も、長期的には減少が見込まれる

出典：日本製紙連合会

## 当社の経営環境 世界紙・板紙生産量の推移(暦年)



### 《海外市場の動向》

- ・世界の紙・板紙生産量は4億トン突破
- ・欧米諸国は日本と同様に横ばいだが、世界一の中国及びアジア諸国では今後も紙・板紙の生産量の増加が見込まれる

⇒中国・アジアを中心に、抄紙用具需要増加を期待

出典：FUTURE誌を基に当社作成

# シンボルマーク



フェルト、シュープレス用ベルト、トランスファー用ベルトを  
3本の線に例え、「世界一」を目指して上昇する姿を表現

45

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれて  
おります。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能  
な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の  
業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画などとは  
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保障する  
ものではありません。

## 【お問い合わせ先】

イチカワ株式会社  
総務部IR担当

〒113-8442 東京都文京区本郷2-14-15  
TEL: 03-3816-1111